

■ ■ ■
□臨時増刊『尾瀬沼』の口繪『尾瀬スケッチ』及び『白樺』は、印刷所に於て、期日遅延の爲め再校を経ず、縦に版面を改め、且夜分印刷して直ちに製本部へ廻せし由にて、思切つて醜惡のものと相成候。石版印刷については毎回苦心少なからず、原稿は早くより廻し置くに掲げらず、いつも實際に相成らざれば校正を出さず、活版印刷成るの頃漸く刷上候次第にて、今回とても前より充分注意なせしに其甲斐なく、かゝる失態を生ぜしは誠に申譯無之候。

□依而右謝罪として石版所より尾瀬風景を別に印刷して提出可致、今度は良好のものを出すべしと盟ひ候に付、來號の『みづゑ』に添付可致候間、其にて御見許被下度候。

□次號には、久々にて丸山晚霞氏の講話及繪畫の原色版出づべく候、猶山嶽紀行を以て有名なる、小島烏水氏のラスキンについての講話、並びに石川欽一郎氏のマクワータの水彩畫談、及び大下氏の靜物寫生の續稿並に岩代燧岳の原色版等掲出可致候。

□次號は多分この月二十五日頃印刷を終り

候筈につき、前金切の諸君は、其前に御拂込有之度、猶宿所届先變更の場合は、二十日前に御通知被下度候。

□新年に入りては、郵便物多量のため、自然到着延引可致候間、新規御注文等も二十五日頃迄に御申込相成度候。

近 事

△太平洋畫會秋季寫生會は十一月十六日より三日間武州五日市地方に於て催されたり

△日本水彩畫會研究所秋季寫生會は十一月二十二日より三日間相模小倉附近及武州高尾山並びに八王子附近にて催されたり

△茨城縣石岡町好美會にては十一月六日洋畫展覽會を同町小學校に於て開きたり出品者は高松康、松浦友次郎、小林泰二郎、小神野三男四、高橋松次、三宅克己諸氏にして頗る盛會なりしとなり

△青森縣師範學校にては十一月二十二、三兩日圖畫展覽會あり東京よりも出品もありしと

△和歌山縣師範學校にては十一月三日五月會第三回展覽會を開きしが出品數百餘點前

回に比して進歩著しかりしといふ

△大阪松原社中開催の第二回洋畫展覽會は十月二十四日より十一月七日迄十五日間同市博物場にて公衆の縦覽に供したり出品は家塾の分百四十一點東京及京都の大家よりの分七十六點總計二百十七點の多數に上り入場者實に四萬六千八百六十九人一日平均三千五百三十四人にして賣約高も七百圓以上に及び實に關西未曾有の盛會なりしといふ

編者より

◎但馬、成田氏へ 本會に現品なし、方寸は本郷區千駄木林町方寸社發行、大家庭は不明

問に答ふ

■一 繪に潤澤なきは繪具の新古に關係なきや

■二 自然を忠實に寫せとの説明により

ヴァイオリンの絲を一直線にせしに、續いたり絶えたりした方がよいと言はれたり、如何にせばよきや

■三 『みづゑ』紙上『編者

より』の欄は無益なりと思ふ存在の必要ありや四 『みづゑ』創刊以來雨の繪なし、十日に二日は雨が降る、先生方の得意もあらんが雨の繪なきは横着ならずや、小生如きなまげものも日和の繪に對して二枚位は畫いてゐる、雨の繪、夕陽曙光など見せて貰いたし(佐々木眞太郎)◎一 繪具の新古よりも描法によるなり、一ヶ所を幾度もコスリつけたり、不透明な色を多分に使用する繪がドライになる、但繪の具もあまり古いのはリスリンを混せて、練直したらよからん二 忠實といふのは何も角も見えた通りといふ意味ではない、寫眞のやうなものの博物の標本のやうなものを描けといふのではない、一本の線を引くのでも定木をあててやつたのでは線が死んで仕舞ふ、極々の初學の人に勝手な仕事をやらせると危険だから忠實といふことをいふが、色をつけて寫生の出来る位ひの人は多少繪をかいてゐるといふ考があつて欲しい、一本の線でも器械的に無意味になつては困まる、繪のムツカシイ處は此處にある、筆にも口にも云ふことが出来ぬ、繪といふものは悟るもの

である、地方に在て直接師に就くことの出来ぬ人は、多く名家の繪を見て自分で悟るより致方なし三 『編者より』の欄は重に畫の短評なるが、特に『みづゑ』中繪として寄贈し來るものを採用せぬ場合に、その儘採擷なしも氣の毒なれば、時に餘白ある場合に短評を試むるのみ、故さらにこれが爲めに一欄を設けしといふにあらば差支なしと思ふ四 何等深き理由あるにあらず、編者の手に雨の繪によきもの集らざるが爲めなり。序に畫家といふものは何でも描ける筈なるが、夫々専門ありて、自己の好まぬ畫題あり、雨の繪なしとて横着呼はりは當を得ず、但夕陽曙光によきものを得ば掲出すべし 會友にして作品批評を請ふべき紙數及繪の大きを知りたし、又募集繪畫の大きさは如何(北總生)◎毎月三枚にして大きさに制限なし、但大なるものゝ外は巻きて送るべからず、又募集の繪は寫眞版の分は大ひさ自由、中繪は四寸と六寸以下

讀者の領分

■由井君、高巢君、筒井君、木内君、鹽島

君健在なれ。『みづゑ』愛讀諸君よ、陸續肉筆繪葉書の交換を望む但粗末なるものは御斷り(秋田市茶町梅の町河村金治) 〓『みづゑ』三十八より四十一迄をミレー畫譜一部十二枚と御交換を乞ふ(長野縣上田町原町三丁目關正造) 〓『みづゑ』第一より四十二迄を僕所藏の全紙水彩畫一枚と御交換を請ふ、次に手本や美術雜誌と肉筆水彩と御交換を請ふ(和歌山市北休賀町近藤清一) 〓眞面目なる繪葉書交換を願上候、次にスタヂオ圖案年報一九〇七年分原價七圓五十錢のもの格安に譲りたし(福井市日の出上町三樋口方樋口敏子) 〓大日本繪畫講習會發行洋書講義錄全部安價譲りたし(小樽區新富町六八、金子健三) 〓繪ハガキ競技會の開會を望む(函館小島虎太郎)◎近來佳作の出品なく當分見合せの筈 〓光風三年一號をワツトマンハツ切風景書二枚位にて御交換下さる方なきや、次に繪ハガキの交換希望(米澤市免許町下千三百八佐藤周子) 〓『みづゑ』第三、第五を一部三十錢宛にて譲つて下さい(兵庫縣明石町枝吉延太郎)